

● 宮代町一般廃棄物（ごみ）処理基本計画について

1 計画の基本理念・基本方針

● 計画の基本理念

一人ひとりが自覚を持って進めるごみの減量化と資源化

● 基本理念の実現を目指すための基本方針

基本方針1 ごみの減量化

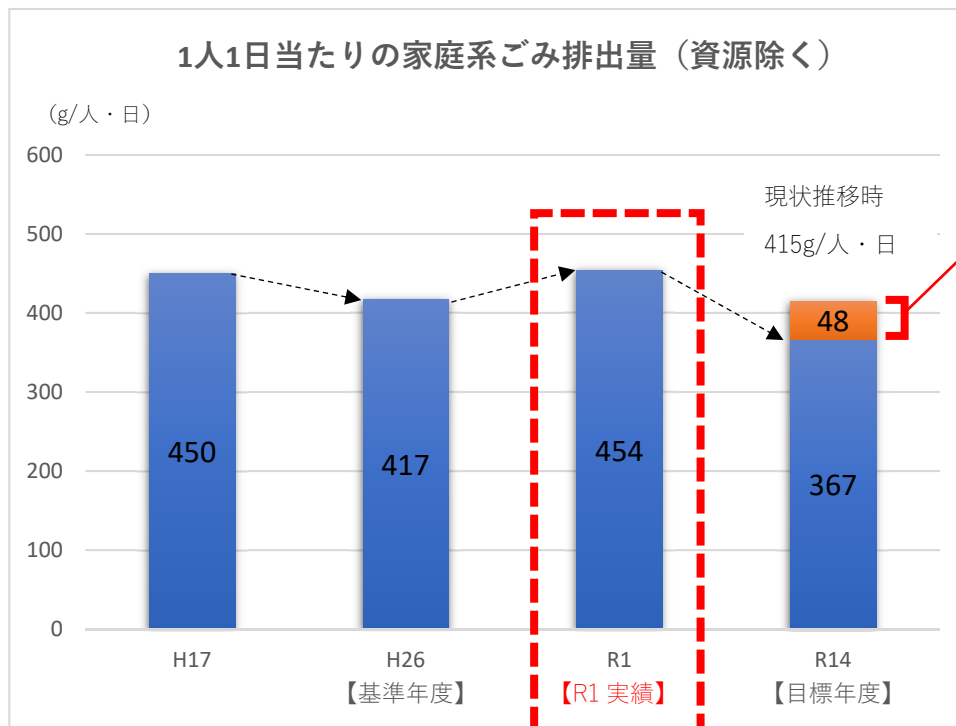
基本方針2 資源化の推進

基本方針3 環境への負荷を抑えた適正なごみ処理事業の推進

2 将来目標

● 目標1 ごみ減量化目標

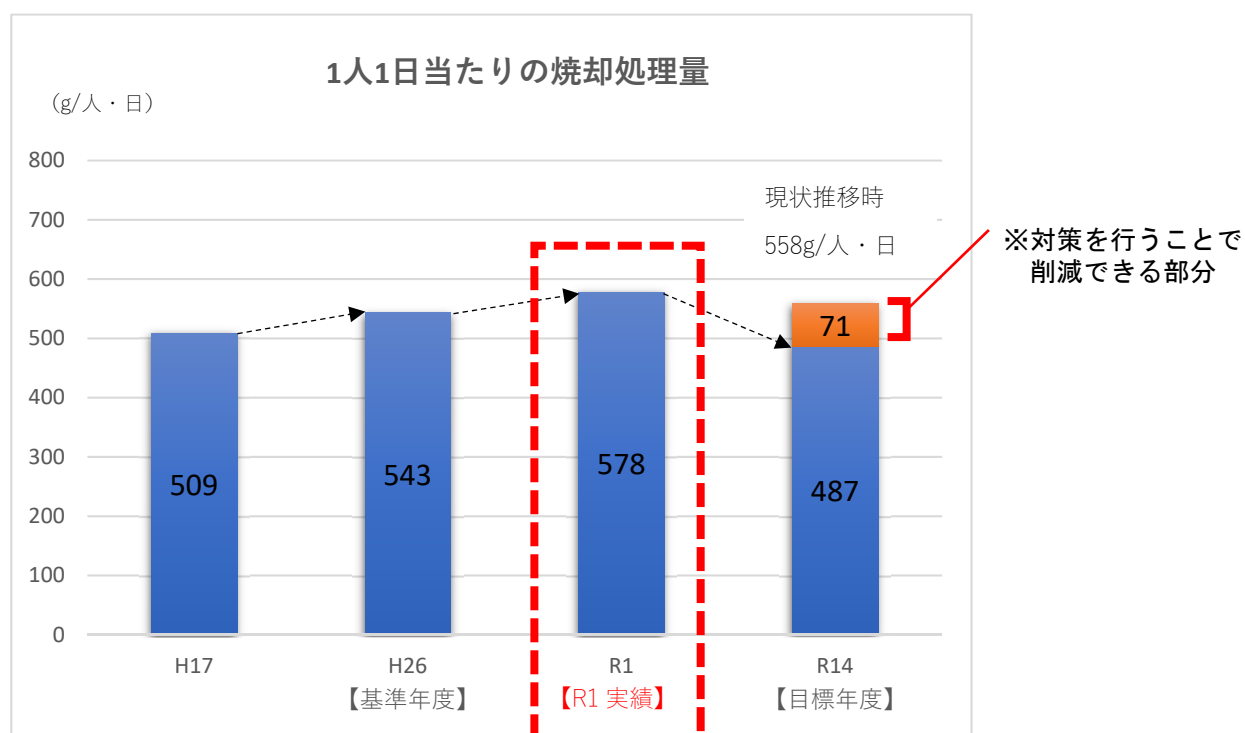
1人1日あたりの家庭系ごみ排出量（資源除く）を令和14年度までに、平成26年度の実績値に対して11%以上削減します。



- ・平成26年度（基準年度）に対して、令和元年度は約8.9%排出量が増加している。
- ・令和14年度（目標年度）の目標値に達するには、令和元年度に対して約19.2%の排出量の削減が必要となる。
- ・平成27年度には、排出量450gに増加し、平成17年度と同等の数値となった。その後、平成28年度=434g、平成29年度=412g、平成30年度=419gと徐々に減少し、基準年度の平成26年度と同程度の数値となった。しかしながら、令和元年度は、454gと再び増加した。
- ・令和元年度の上昇の主な要因としては、令和元年度は令和2年1月中旬に、新型コロナウイルス感染症発症者が確認され、その後、感染症拡大予防対策のための在宅時間の増加や衛生用品の使用により家庭ごみの排出が増加したことが考えられる。
- ・また、その他の上昇要因としては、平成30年度をもって生ごみ減容化（HDMシステム）及び堆肥化事業実証試験が終了し、資源類としていた台所資源（生ごみ）が令和元年度は燃やせるごみとしての取り扱いになったためと考えられる。

●目標2 環境への負荷を抑えたごみ処理目標

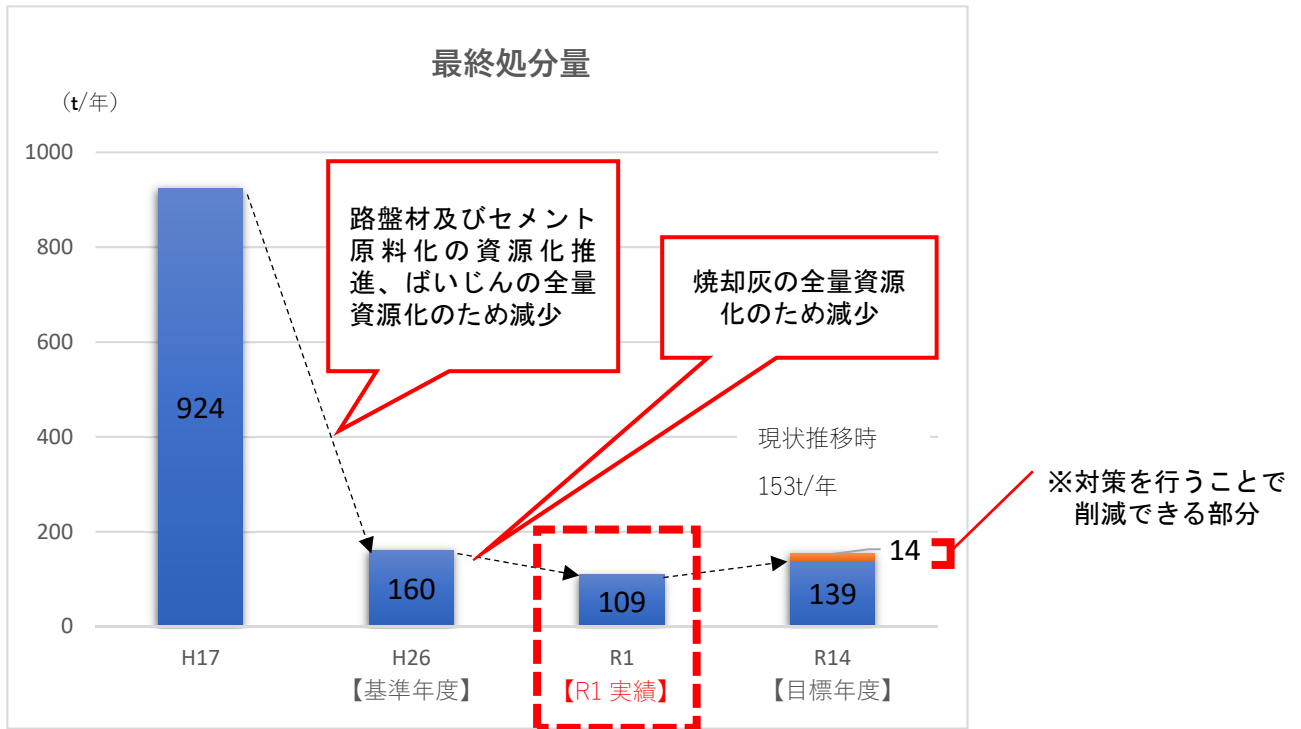
1人1日あたりの焼却処理量を令和14年度までに、平成26年度の実績値に対して10%以上削減します。



- ・平成26年度（基準年度）に対して、令和元年度は約6.4%処理量が増加している。
- ・令和14年度（目標年度）の目標値に達するには、令和元年度に対して約15.7%の処理量の削減が必要となる。
- ・目標1の「1人1日当たりの家庭系ごみ排出量」の増加により、焼却処理量も増加。

●目標3 環境への負荷を抑えたごみ処理目標

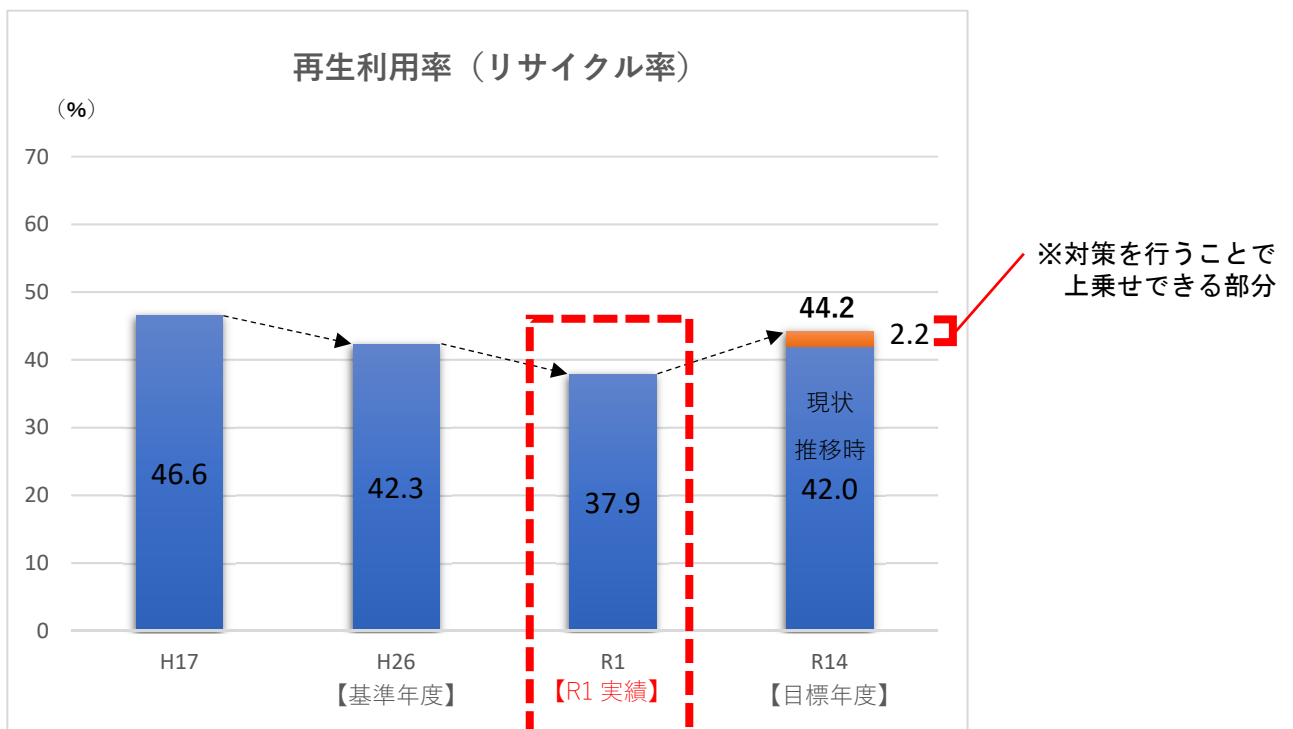
最終処分量を令和14年度までに、平成26年度の実績値に対して13%以上削減します。



・平成26年度（基準年度）に対して、令和元年度は約31.9%処分量が減少している。

●目標4 資源化目標

再生利用率（リサイクル率）を令和14年度までに、44%以上に引き上げます。



- ・平成26年度（基準年度）に対して、令和元年度は4.4%利用率が減少している。
- ・令和14年度（目標年度）の目標値に達するには、令和元年度に対して約6.3%の利用率の増加が必要となる。
- ・再生利用量のうち、紙類・衣類等の量の減少幅が大きい。（平成26年度1,630t/年→令和元年度1,101t/年 …529t/年（32.5%）の減少）
- ・紙類・衣類等の減少の要因としては、電子媒体による情報収集が可能となったため、新聞等の発行部数が減少傾向にあり、資源物自体の発生が抑制されていることが考えられる。また、衣類等については、各企業において店頭回収を行い、リユース、リサイクルの動きが見られることが影響していると考えられる。

【参考】新聞の発行部数と普及度（出典：一般社団法人 日本新聞協会）

年 (各年10月)	発行部数 (単位=千部)	人口千人 当たり部数	日刊紙数
2019 (R1)	46,233	370	116
2018 (H30)	48,927	390	117
2017 (H29)	51,829	412	117
2016 (H28)	53,690	426	117
2015 (H27)	55,121	436	117
2014 (H26)	56,719	448	117